

# パリアン通信

発行：グループパリアン 東京都墨田区両国 3-19-5 ヲム両国ビル 4F 電話(03)5669-8302

## 第5回「メモルの集い」を終えて

辻川 裕



今年度最後のメモルの集いは3月3日午後に行われました。参加者は当初5名の予定でしたが欠席された方がいたため、結果3名の方が出席されました。

今回も茶話会形式で行われましたが、出席者が少ないこともあり、特に司会進行というほどのことを考えずとも、自然と雰囲気はほぐれていました。

奥様を亡くした方、旦那様をなくした方、お父様を亡くした方。それぞれのお立場で見送られてからの時間を過ごしていらしたわけですが、現在はお元気なように見えても当初は心身ともに衰弱してしまった方、慌しい毎日にゆっくり悲しむ暇すらなかったという方もおいででした。

遅れていらした方はお父様を亡くされたということでしたが、現在はお母様が少々気分の揺れが大きいらしく、「あの時対応が悪かったからお父さんは長生きできなかった」と誰かを責めたり「私ももう逝くのだから片付けておかない」といろいろなものを処分し始めていたりということがあって、結局はけんかしてしまうので離れて暮らしているとか。故人の思い出を伺うことも大事なことです。残った方のこのような問題を伺うことも、この会の大事な役割のように思います。



いつものようにメモリアルツリーに個人のお名前を書いた葉を貼り、その折にはお一人ずつ写真を撮りました。

出席者が少ないからこそお一人お一人に丁寧な時間を使えたと思います。

## BS 日テレ「医療の扉」でパリアングループが出演

4月1日BS日テレで始まった「医療の扉」の第1回放送で、「末期がん患者と向き合う在宅緩和ケア専門チーム」というタイトルで、パリアンが紹介された。

病院での治療がなくなって退院した在宅緩和のがん患者が増えている。自宅での治療を余儀なくされ、家族との時間を望む余命を宣告された末期がん患者。患者は病魔と闘い、身体・心をむしばみ、家族を巻き込む。しかし、そこには、医師・看護師が一体となって立ち立ち向かう専門チームがあった。”限られた命を謳歌してもらいたい、そして患者さんの思いを叶えたい”そんな志が集まった在宅緩和ケア専門チーム、そのチーム名は「パリアン」。

川越理事長は「患者さんと家族と大切な命を共有するという在宅緩和ケアは命ある限りやりたい医療」と締めくくっている。

訪問ボランティア

あんなことこんなこと

## &lt; 父と息子 &gt;

寡黙なCさん。奥様のお出かけ中の見守りで訪問。ベッドで横になっているCさんとは、ほんの時々言葉をかわす程度。ほとんど眠っているCさんのベッドのそばで静かに見守っていた。

ある日、いつものように訪問すると、息子さんがいた。結婚して別に住んでいるが、休みを取って来たと言う。私にもいてほしいとのことだったのでおじゃまする。

すると、Cさんはいつもと全く違った。“水をくれ” “足をもめ” …と大きな声で言う。私がやろうとすると拒否して、息子さんの名前を呼ぶ。困惑ぎみの息子さんと私でなんとかこなしていく。

Cさんが眠ったあと、息子さんと話す。

“あまり話しもしないし、距離を感じていた父と、今どうして接していいのかよくわからない。”

私はどう答えたのだろう。

その後、Cさんの急変で訪問することがなかったので、二人がその後どうだったかは知らない。

父と息子、戸惑いながらもいい時間が持てたことを心から願う。

大切な時間や大切な思いの一片を私達は共有している。



K♡

## 遺族からの手紙

## 「本当にありがとうございます」

寒中お見舞い申し上げます。

早いもので夫の一周忌の法要を済ませパリアンさんにお世話になったあの当時をふり返り感謝しつつ、あれこれ思い出していた所にご丁寧なおハガキ頂き、皆様のおやさしさに感銘致しております。

亡き夫が息を引き取って二日後に「ありがとう」と私に伝えに来てくれたのですよ。パリアンさんをお願いしたからこそ、とありがたく思っています。三人の孫達も、お友達もちょこちょこ訪れてくれているので、何かと普通の生活を取り戻しつつある様です。とは言え、夜は寂しいですネ。そんな時こそパリアンさんを思い出して頑張って生きたいと思っています。本当にありがとうございます。





## おしらせ

### ‘12年度第1回「ボランティアの集い」は4月14日に予定

2012年度の「ボランティアの集い」は、新ボランティアコーディネータを迎えて4月14日午前10時30分から、シュタム両国のパリアン4階打ち合わせコーナーで行います。内容は下記のとおり。

- ① 今年度の活動計画 ②新しいボランティアコーディネーターの紹介 ③ボランティア登録  
④各ボランティアチームの活動報告と新年度の抱負 ⑤勉強会一テーマ「精神疾患をもちながら地域で過ごす人を理解する」 □

## 4月号から「ボランティア通信」から「パリアン通信」へ

4月号から「ボランティアグループパリアン会報」は、パリアンの機関紙「パリアン通信」として再出発することになりました。これを契機に、パリアン通信の名称（愛称）を募集いたします。奮ってご応募ください。編集担当は今まで以上に喜んでいただける紙面を目指しますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

## 4月のボランティア活動予定

- ・第1回ボランティアの集い：4月14日（土）午前10時30分～12時
- ・訪問ボランティアのミーティング日：4月14日（土）午後0時～
- ・デイホスピスボランティア：4月6日（花見）、13日、20日、27日
- ・手作りボランティア：4月14日（土）午後0時～
- ・事務ボランティア：4月14日（土）午後0時～
- ・命日カードボランティア：4月26日（木）午前10時～



## 編集後記

春の訪れを待つ季節になりました。公園の木々達もつぼみをつけて春の訪れを待っています。そんな中、2月下旬に小田原梅まつりに行ってきました。

今年は寒さが厳しいためか通常咲いている梅の花がほとんど開花せずに通常2月29日までを期間延長して3月6日までになっていました。全体で3～4部咲きです。そんな中でも見物客



は観光バスが来るほど多かったです。今年は一ヶ月遅れ満開とのことでした。

花や動物は心の癒しになります。犬による老人施設や小児病棟への心のケア訪問もあるくらいですから。桜が咲いたら、ディなどで患者様と一緒に花見ができるといいですね。

未曾有の震災から一年、今年は笑み、咲みが早く沢山訪れることを願います。

パリアンの新年度も始まります。私は、できることからまたお手伝いをさせて頂ければと思っています。(石田)